

特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

愛知大学の中国関係コレクション—大学図書館の礎「霞山文庫」を中心として

桂 二幸

愛知大学は一九四六年一月に旧制大学の法経学部とその予科として認可され、旧豊橋陸軍第一予備士官学校跡に創設された。その設立の主流になったのは、敗戦当時海外にあった上海の東亜同文書院大学、京城帝国大学、台北帝国大学の教職員であった。

当大学は創立六〇周年を迎え、蔵書は三校地の各図書館、四研究所を含めると一五〇万冊に迫る。しかし、図書館の歴史の始まりは極めて困難なものであった。大学創設のため必要とされる量の資料を入手することは、当時の脆弱な財政に戦後の混乱が拍車をかけて容易ではなかったのである。教職員の多くは、その蔵書をすべて失った外地からの引揚者であったため、図書を持ち寄ることすらままならなかった。そのため、東亜同文書院大学の経営母体であった東亜同文会と折衝し、霞山会館図書室所蔵の現代中国関係を主とする図書約三万五〇〇〇冊の寄託を一九四七年に受けて（のち一九五〇年に買収）図書館は船出したのである。

霞山文庫の紹介に入る前に、先の所蔵主である東亜同文会と文庫名のもとになって

いる近衛篤磨（このえあつまる、号・霞山かざん）について紹介しておきたい。

東亜同文会は日清戦争が終わった三年後の一八九八年に誕生した。このころ、西列強の中国への侵略は苛烈を極め、またロシアはかねてより満鮮北支に野望を示しており、日本にとっても脅威と考えられていた。新聞『日本』を創刊し、「国民主義」を唱えたジャーナリスト・政論家の陸羯南（くがかつなん、本名・実）を主とする東亜会（一八九七年）と近衛篤磨を中心とする同文会（一八九八年）はいささか系譜は異なるものの合併し、東亜同文会となったのである。その綱領には「支那の保全」、「支那の改善を助成」、「支那の時事を討究し実行」、「国論の喚起」がうたわれていた。また、東亜同文会は権威ある調査研究機関として時論誌などを発行、さらに日中提携のための人材養成を目的とする教育機関である東亜同文書院（一九〇一年設立、三九九年大学昇格、四五年廃校）の経営に携わった。その初代会長には近衛篤磨が就任した。同会最後の五代目は彼の長男で昭和一〇年代に首相となる近衛文磨である。

近衛篤磨は早くから向学心に燃えて十代の頃には英学塾で学び、二十代になるとオーストリアに留学し、ドイツのライプチヒ大学に移って憲法学を修めて卒業する。一八九〇年帰国後貴族院議員となり、その六年後に議長ともなっている。その就任は三三歳、名門貴族の出でありながら貧富の差を減らすためのリベラルな社会政策を説き、政界のスターとなり、国民にも人気があった。将来を嘱望されたが、四一歳の若さで病死している。

●霞山文庫

豊橋図書館の第一書庫の五階に上がり、ドアを開けると、左手に古色蒼然とした資料が待ち受けている。これらは敗戦時まで東京の虎ノ門にあった東亜同文会の所蔵本であるが、本学に収まるまでにはその歴史がある。同会の最初の蔵書は一九二三年九月の関東大震災で焼失の痛手を受けたが、のち改めて収集された。第二の受難は一九四五年一二月霞山会館がアメリカ進駐軍により接収されたことにある。接収されるとの情報が伝えられると即座に所蔵本を守る



支那省別全誌



支那調査報告書



新修支那省別全誌



支那経済全書

行動がとられた。のちに本学図書館の初代館長に就任することになる神谷東亜同文書院大学助教授と学生を含む数名は、蔵書のほとんどすべてを運び出し、難を逃れた。書架にある紹介のボードには、以下の記述がある。「霞山文庫 一九四七年（昭和二二）受人 図書・一二、三〇三冊（一部別置）雑誌・邦文五三六誌・中文一一一誌 旧東亜同文会（創立・近衛篤磨公、号・霞山）の所蔵本。清末より民国時代の中国関係資料を主とする。」

東亜同文会から愛知大学に受継がれた資料を分類すると次の三種類となる。

- ① 東亜同文会の本来の蔵書。
- ② 東亜同文会内にあった支那省別全誌刊行会がその活動のために収集した資料。
- ③ 東亜同文会が保存していた東亜同文書院支那調査報告書。

①、②の分野は社会・経済・政治・法律関係の図書が中心であり、当時の定期刊行物や関係諸団体発行の資料が多い。また、②は省別全誌編纂のために収集した図書であるから、中国の地誌関係の中国書も多い。主要な資料を紹介しよう。

東亜同文会の前身である日清貿易研究所の『清國通商綜覧』三卷（一八九二年）。さらに重要な資料として、③を基に東亜同文会が刊行した数種の出版物があるが、これについては後に詳述する。同会の機関誌では『東亜同文會報告』（名称を変え『東亜同文会支那調査報告書』から『支那』と

なる）、『支那経済報告書』など。東亜同文書院の機関誌では『支那研究』、『東亜研究』などを所蔵する。また、民間機関発行の雑誌では『支那時報』（支那時報社）、『滿蒙之文化』（滿蒙文化協會（名称を変え『滿蒙』となる）、『滿洲評論』（滿洲評論社）、『上海』（上海雜誌社）、『金曜會パンフレット』（金曜會）など。このほか、南滿州鉄道株式会社、東亜研究所、興亜院、台湾総督府、朝鮮総督府などが発行した各種の「調査叢書」、「調査報告書」、「調査資料」、「調査月報」といった類の資料。年鑑類も多い。また、民国時代の法律関係のものである。また、印鑄局官書科編『法令輯覽』（一九一七年）一〇巻、國務印鑄局編『法令輯覽續編』（一九一九年）四巻、立法院編『中華民國法規彙編』（一九三四年）九巻、同上編『中華民國法規彙編…二十四年輯』（一九三六年）三巻、劉燧元・曾少俊共編『民國法規集刊』（一九二九年）九巻などが目立つところである。

・東亜同文書院支那調査報告書

東亜同文書院の学生は最終学年になると、学生自ら自由に調査テーマを決め、コース別に班を編成し、五月末ころより二カ月から半年をかけて中国各地に旅行に出かけた。二名から六名程度のグループのヘルメット帽を被った私たちは、さながら探検隊スタイルであった。学生は鉄道など一部しか敷かれていない時代の劣悪な交通状況のなかで、徒歩を中心に時に馬車や舟に乗り、

自炊の用具と寝具まで携えて、現地調査を行ったのである。中国のみならず北はカムチャッカ半島から南はビルマ（現在のミャンマー）やインドネシア、フィリピンに及ぶこともあった。

この調査旅行は二期生の五名が卒業直後の一九〇五年に外務省の委託をうけて、中国の西域の調査に出かけたことに起因し、五期生の一九〇七年に外務省から東亜同文書院へ調査旅行補助費が交付され、活動は本格化した。第一七期生の一九二〇年までに地域名を頭に付したコースが一般化し、定着していたが、第一七期生からは頭に地域調査の目的として例えば、「中北支の金融事情」、「湖南省を中心とする茶業」、「長江経済」などと明記するようになった。一八期生から第二二期生までが調査旅行の円熟期と言うことができる。第二八期生の一九三一年の調査旅行後の九月、満州事変がはじまり、翌年には学生たちの調査旅行を保障していた中国側の「護照」（パスポート）も発行を拒否されて、事実上自由な旅行は不可能になった。その後の調査旅行は、日本軍の支配地域のみ限定されながら継続したが、一九四四年をもって終焉を迎えたのである（ただし、最終年は自発参加）。総コース数は実に七〇〇近くに達し、延べ五〇〇〇人の学生が参加することになった。問題の「調査報告書」は、こうした旅行の成果としてまとめられた学生の「卒業論文」に他ならない。第二三期生の一九一六

年から第三二期生の一九三五年までが残されている。雁皮紙にカーボン紙で複写された手稿本で、複本を含め七〇七冊。この手書きの「調査報告書」を基に東亜同文書院が取捨選択して編纂・出版した書物が『支那經濟全書』一二巻（一九〇七～一九〇八年）、『支那省別全誌』一八巻（第一巻広東省、第一八巻直隸省、一九一七～一九二〇年）および『新修支那省別全誌』九巻（第一巻四川省「上」～第九巻青海省・西康省、一九四一～一九四六年）（全三二巻の予定であったが、敗戦により完成をみずに第九巻までで中断）である。これらは当時の中国社会の実相を描き出す第一級の資料となっている。

・東亜同文書院大旅行誌

「調査報告書」とは別に、旅行中の出来事の記録である日記・紀行文が残されているが、第五期生の『踏破録』（一九〇七年）から各期ごとにまとめられ、第四〇期生の『大陸紀行』（一九四三年）まで刊行されている（出版のない年もある）。

●ライヒマン文庫

ジェリー・ライヒマン (Jerry Reichman) はアメリカ City National Bank of Los Angeles の副頭取を務めた人物である。一九三四年の生まれで、南カルフォルニア大学でアジア学の学位を取得し、北京官話を会得していたという。氏の旧蔵書の一部である「初期中国・アジア研究資料集成」が一九九一

（平成三）年度当時の文部省の補助を得てライヒマン文庫の名で当館に収蔵されることになったのである。

九七九冊の大半は英語文献であるが、ドイツ語・フランス語とイタリア語の文献も含まれる。出版年は一九〇〇年より一九一一年までであるが、一八九〇年代のものが最も多い。文献内容としては、次の三つに大別される。

- ① 一七世紀初頭から中国に滞在した宣教師などヨーロッパの知識人による中国の思想、政治、社会、文化に関する考察。
- ② アヘン戦争（一八四〇年）の時代の、政治的見聞記や外交記録、ルポルタージュ。
- ③ 中国以外の極東・中央アジア・インド・東南アジア地域関係資料。

これらの中からいくつか目につく資料を紹介したい。

Arnold, Edwin, *Light of Asia* (『亜細亜の光』) は釈迦の生涯を描いた叙事詩。英米で版を重ね、邦訳は岩波文庫にも収められている。著者のアーノルドは英国人で、デイルーテレグラフの主筆も務めた人物。

Bird, Isabella L. *The Yangtze Valley and beyond* (『中国奥地紀行』) は東洋文庫に邦訳もある。イザベラ・バードは英国の旅行家・探検家で日本旅行もしている。

Brinkley, Captain F. *China: Its History, Art and Literature* (支那—その歴史、芸術、文学)。プリンクリーは中国名・布林克萊。英国軍人。勝海舟の要請で海軍省御雇とな



特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

る。横浜で英字新聞 *The Japan Mail* を創刊し、海外向け日本紹介に業績を残す。

Douglas, Robert K., *Li Hungchang* (李鴻章伝)。ダグラスは中国名・刀格刺斯。駐中国の英国領事館員を勤めたのち、大英博物館東洋書籍部長となり、日本・中国の文献目録を作成した。

Edkins, Joseph, *Chinese Buddhism* (支那の仏教)、『*Religion in China* (支那における宗教)』。エドキンスは中国名・艾約瑟。英国人宣教師。宗教、とくに儒教に関する分野の研究に優れた人物。

Giles, Herbert A., *A History of Chinese Literature* (支那文学史)、『*The Civilization of China* (支那文明論)』、『*Chuang tzu* (英訳 莊子)』。ジャイルズは中国名・翟理斯。中国語のローマ字表記ウエイド・ジャイルズで知られる英国人。中国関係の著作は枚挙に暇がない。華英辞典の著者としても有名。Legge, James, *The Chinese Classics* (支那古典) は欧米の中国学の名著とされる経書の翻訳。レッグは中国名・理雅各。英国人宣教師で英華書院の院長を経て、オックスフォード大学の初代中国学教授となった。

●その他の文庫

愛知大学図書館は以上に紹介した二種文庫以外にも、中国関係の数多い文庫を擁している。紙幅の制約もありその全てを詳しく紹介できないので、関係する全文庫を一覧表の形で示し、利用者の便宜に供してお

きたい。

(か)つら みゆき／愛知大学豊橋図書館

中国関係コレクション OPAC (http://library.aichi-u.ac.jp)
豊橋図書館
(1) 霞山文庫 35,000 冊 (詳細は先頁を参照のこと) (検索) OPAC、漢籍は「愛知大学漢籍分類目録」
(2) 簡齋文庫 (元蔵相小倉正恒氏旧蔵書) 漢籍、国書 30,000 冊 (概要) 小倉氏は号を簡齋と言ひ、住友本社総理事・東亜同文会理事でもあった。〔楚辞集註〕明版を含む。 (検索) 「愛知大学漢籍分類目録」
(3) 霞山会・田尻文庫 (元外務次官・霞山会理事田尻愛義氏旧蔵書) 和書、中国書 5,200 冊 (概要) 現代中国および日本外交に関する資料。 (検索) 和書は OPAC、中国書は冊子体「愛知大学所蔵図書目録」
(4) 竹村文庫 (元旧制浦和高等学校教授竹村昌次氏旧蔵) 洋書 916 冊 (概要) 英・独・仏語の東洋史関係図書 (歴史書・地誌・紀行文など)。1750 年から 1920 年まで。 (検索) OPAC
(5) 中国学術交流文庫 中国書 1,700 冊 (概要) 南開大学、北京語言学院 (現・北京語言大学) など海外提携校との学術交流による交換で入手した図書。 (検索) 冊子体「愛知大学所蔵図書目録」
(6) 中日大辞典文庫 和書、中国書 3,277 冊 (概要) 東亜同文書院時代より継がれた「中日大辞典」編纂事業のために収集した図書。 (検索) 和書は OPAC、中国書は冊子体「愛知大学所蔵図書目録」
(7) 浅川文庫 (元中国研究所常任理事浅川謙次氏旧蔵書) 和書、中国書 2,166 冊 (概要) 主に現代中国の政治・経済に関する文献。 (検索) 和書は OPAC、中国書は冊子体「愛知大学所蔵図書目録」
(8) ライヒマン文庫 洋書 979 冊 (詳細は先頁を参照のこと) (検索) OPAC
(9) 小川文庫 (小川昭一氏旧蔵書) 和書、漢籍 3,770 冊 (概要) 主に中国学基礎文献 (唐詩など)。 (検索) 和書は OPAC、漢籍は冊子体「小川文庫漢籍簡易目録」(事務用)
(10) 佐藤文庫 (元愛知学芸大学学長佐藤匡玄博士旧蔵書) 漢籍 3,750 冊 (概要) 主に経学関係の文献。 (検索) 冊子体「佐藤文庫漢籍簡易目録」(事務用)
(11) 徳永文庫 (旧京都帝国大学教授徳永清行氏旧蔵書) 図書 664 冊、雑誌 42 誌 (概要) 満州国設立 (1932 年) の頃の支那満蒙関係資料。経済に関わるものが多い。 (検索) OPAC、「徳永文庫目録」(事務用)
名古屋図書館
(1) 「四庫全書珍本」初集 (所蔵は豊橋図書館)、二集～十二集、別集 (概要) 文淵閣本四庫全書の貴重書を選択し、景印刊行したもの。初集は、1954 年中国政府より中華人民共和国成立を記念し本学に寄贈された。 (検索) 冊子体「愛知大学所蔵図書目録」
(2) 「四庫全書存目叢書」全 1,200 冊 (概要) 「四庫全書」に収録されなかった書籍から、4,000 余種 6,000 巻余りを収集し一大叢書にしたもの。「四庫全書」は豊橋図書館所蔵。 (検索) OPAC
(3) 「中国新編地方志」1,147 冊、一部継続中 (概要) 国家規模で新しく編纂された地方誌の集大成。県誌を中心に省誌・市誌・地域誌などもある。2006 年 3 月「中国新編地方志総目録提要(1)」が出版され概要が示された。 (検索) OPAC (「中国新編地方志総目録提要(1)」により書名等確認)
(4) 「文化大革命資料」1,843 種 4,711 点 (概要) 文化大革命時期の紅衛兵新聞を中心とした、中共中央、中央文革小組などの指示・通知を含む資料。 (検索) 国際中国学研究中心 (ICCS) にて、データベース化が進められている。
(5) 「ウィットフォーゲルコレクション」1,998 点 2,435 冊 (概要) 中国を主な研究対象とした社会学者カール・アウグスト・ウィットフォーゲル (1896-1988 年) の旧蔵書。中国関係では中共中央の諸文献、毛沢東・周恩来などの政治家伝や、魯迅・老舎など現代作家の英訳本を多数所蔵。 (検索) OPAC